

エコアクション21 環境経営レポート

2022年度

対象期間 2022.4.1～2023.3.31



株式会社イー・アール・シー高城

作成日：2023年9月20日

目次

- 表紙

- 目次

- 環境経営方針

1. 組織の概要

2. 環境経営目標

3. 環境経営計画

4. 環境経営目標に対する実績と評価

5. 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

6. 環境保全活動

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに

違反、訴訟等の有無

8. 代表者による全体評価と見直し・指示

環境経営方針

＜基本理念＞

株式会社イー・アール・シー高城は、事業活動全般において、地球環境の保全を重視し、循環型社会形成を担う企業として、地域住民への安心・安全を提供し、環境に優しい社会の構築に全社員で積極的かつ継続的に取り組みます。

＜方 針＞

1. 当社に適用される環境関連の法規を遵守します。
2. 以下の項目を重点目標とし、業務を安全かつ、適正に行い環境負荷の低減に努めます。
 - (イ) 二酸化炭素排出量削減
 - (ロ) 廃棄物排出量削減
 - (ハ) 総排水量削減
- (ニ) 化学物質使用量削減と適正処理
- (ホ) 早期安定化に向けた維持管理の各種取り組み
3. 環境経営目標及び、環境経営計画を定め、環境マネジメントシステムによる継続的活動に努めます。
4. 社会とのコミュニケーションを図り、地域社会との共生を目指します。
5. 全社員で活動できるよう周知し、またその教育を行い、環境保全意識の向上に努めます。
6. この活動全体の定期的な確認及び、見直しを実施致します。

以上の内容についてここに誓約いたします。

2020年1月1日 改定

株式会社イー・アール・シー高城

代表取締役 藤崎 泰士

1. 組織の概要

(2023年3月31日現在)

- ◆会社名 株式会社イー・アール・シー高城
- ◆代表者名 代表取締役 藤崎 泰士
- ◆所在地 〒885-1312 宮崎県都城市高城町四家831番地5
TEL (0986) 53-9100
FAX (0986) 53-9111
- ◆創立 2000年12月22日
- ◆事業内容 管理型最終処分場の運営(2005年12月2日開業)
産業廃棄物収集運搬業・処分業
特別管理産業廃棄物収集運搬業・処分業
一般廃棄物処分業 汚染土壌処理業

- ◆事業の規模 資本金 450百万円
売上高 売上高区分 B (5億円以上10億円未満)
従業員数 25人

- 管理型最終処分場【ERCエコセンター】
(設置許可 シレイ235-17-1 2003年11月5日)

- ・敷地面積 21万㎡
- ・埋立容量 102万㎡ (残余容量 28万㎡)
- ・埋立方式 サンドイッチ方式、セル方式
- ・遮水構造 二重遮水シート(5層構造)

- 浸出水処理施設

- ・生物処理、物理化学的処理、
膜処理システム-DTモジュールユニット
- ・浸出水調整槽 28,100㎡
- ・処理能力 180㎡/日

- 埋立車輛、収集運搬車輛、その他

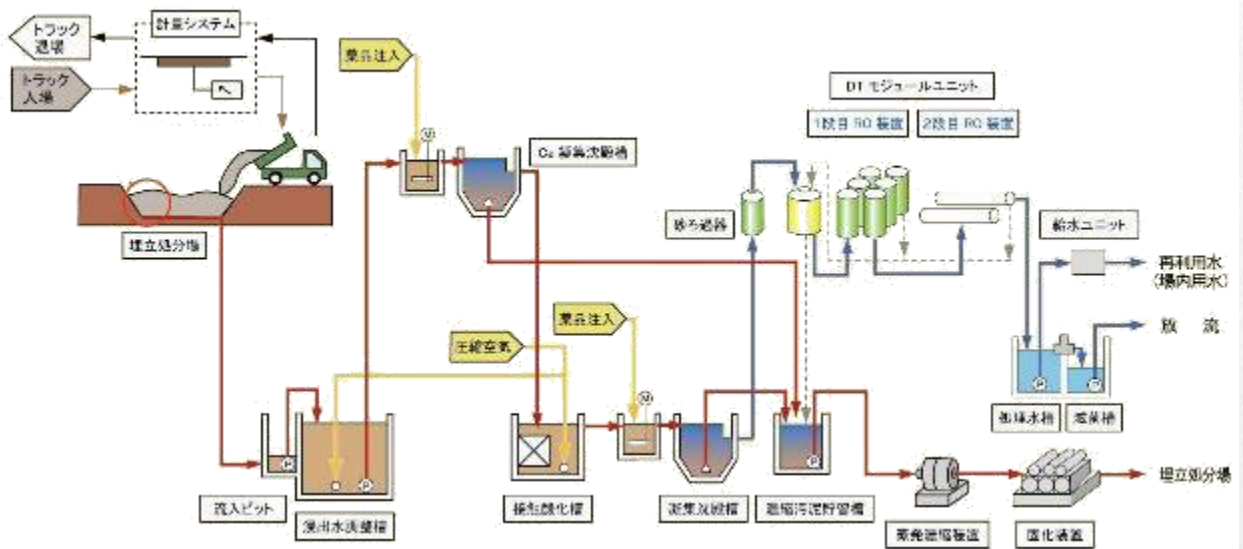
- ・バックホー 4台
- ・ホイールローダ 1台
- ・散水車 1台
- ・2トンダンプ 1台

- 管理棟(事務所) 298㎡

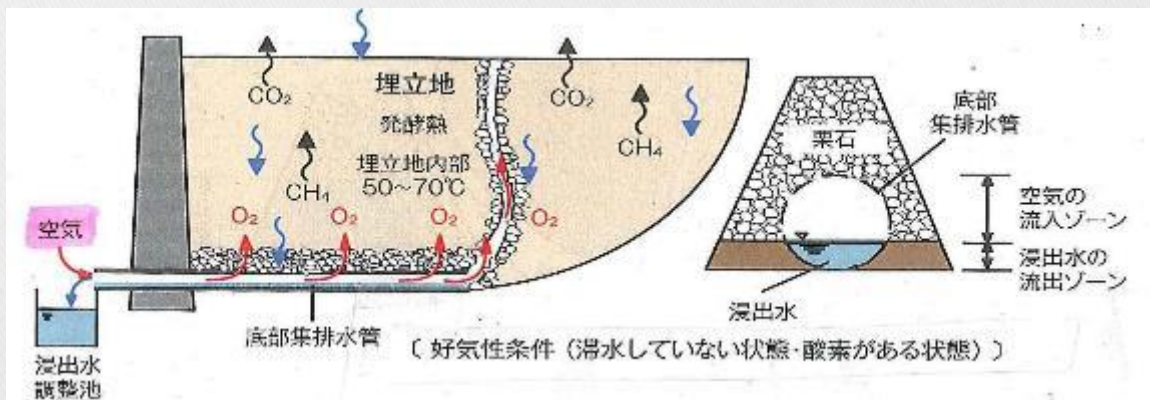
- 処理実績

	2021年度	2022年度
産業廃棄物	47,501t	47,354t
特別管理産業廃棄物	550t	439t
一般廃棄物	62t	184t
汚染土壌(土対法外含)	2,686t	2,311t
収集運搬	0t	471t

◆ 処理施設のフロー図



◆ 準好気性埋立の仕組み



(出典: 産業廃棄物最終処分場の環境管理
発行: 社団法人全国産業廃棄物連合会)

◆ 許可及び登録

産業廃棄物処分業許可

都道府県名	許可番号	許可期限	廃棄物の種類														
			燃え殻	汚泥	廃油	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	ゴムくず	金属くず	陶磁器くず	ガラスくず、コンクリートくず及び 陶磁器くず	鉄さい	がれき類	ばいじん
宮崎県	04533122537	R7.10.24	●	◎	▲	◎	●	●	●	●	●	●	◎	●	◎	●	●

※ ◎石綿含有産業廃棄物を含む。
※ ▲タールピッチに限る。

特別産業廃棄物処分業許可

都道府県名	許可番号	許可期限	廃棄物の種類
			廃石綿等
宮崎県	04583122537	R7.11.29	●

一般廃棄物処分業許可

市町村名	許可番号	許可期限	廃棄物の種類										
			燃え殻	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動物若しくは植物に係る固形状の 不要物	ゴムくず	金属くず	陶磁器くず	ガラスくず、コンクリートくず及び 陶磁器くず	コンクリートの破片その他これに 類する不要物
都城市	第11号	R7.3.31	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

汚染土壌処理業許可

都道府県名	許可番号	許可期限	受け入れられる 特定有害廃棄物	受け入れられる 特定有害物質の汚染状態
宮崎県	0450010001	R9.2.5	第一種、第二種及び 第三種特定有害廃棄物	第二溶出基準以下とする

産業廃棄物収集運搬業許可

都道府県名	許可番号	許可期限	廃棄物の種類														
			燃え殻	汚泥	廃油	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	ゴムくず	金属くず	器くず	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁	鉱さい	がれき類	ばいじん
宮崎県	04503122537	R8.11.30	●	◎	▲	◎	●	●	●	●	●	●	◎	●	◎	●	●
鹿児島県	04608122537	R8.12.3	●	◎	▲	○	●	●	●	●	●	◎				●	●
福岡県	04000122537	R7.1.19	●	●	▲	○	◎	◎	◎	●	●	◎				●	●
熊本県	04305122537	R6.11.25	●	●	▲	○	●	●	●	●	●	◎	●	◎	◎	●	●

※ ◎石綿含有産業廃棄物を含む。

※ ○石綿含有産業廃棄物を含み、農業用廃ビニールを除く。

※ ▲タールピッチに限る。

※ 福岡県の「廃プラスチック類」「金属くず」「ガラスくず等」については、自動車等破砕物をを含む。

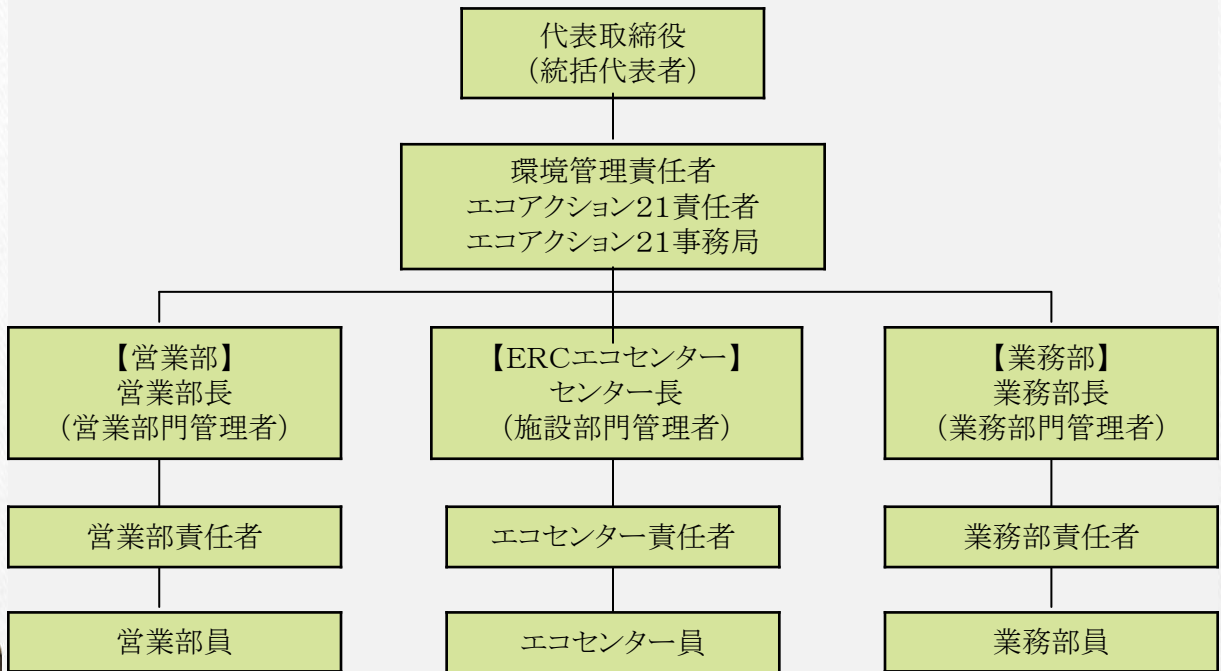
特別産業廃棄物収集運搬業許可

都道府県名	許可番号	許可期限	廃棄物の種類
			廃石綿等
宮崎県	04553122537	R8.11.30	●
鹿児島県	04658122537	R8.12.3	●

◆【認証・登録範囲】 全社・全組織



◆エコアクション21推進組織図



担 当	役 割 ・ 責 任 ・ 権 限
代表者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営方針及び環境経営計画の決定及び改正。 ・エコアクション21の環境経営計画の実施・管理に必要な人員・設備・費用の準備。 ・エコアクション21全体の承認・評価・見直し。
環境管理責任者 エコアクション21責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営方針、環境経営目標及び環境経営計画の周知。 ・エコアクション21の環境マネジメントシステムの構築、運用、維持。 ・環境経営レポート等の関係書類の確認。 ・各部署への運用指示及び運用状況の把握。 ・運用状況と実績を代表者へ報告。
エコアクション21事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営計画の実績の集計・記録。 ・環境経営目標及び環境経営計画の原案の作成。 ・環境経営レポートの作成。 ・環境関連法規の取りまとめ、定期的な内容確認、遵守状況確認。
各部門別管理者	<ul style="list-style-type: none"> ・各部署のエコアクション21活動のリーダー。 ・各部署の環境経営目標、環境経営計画の周知、実施及び状況の確認、記録、報告。
営業部門責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・営業車のガソリン使用量の削減策の立案、実施、指導。
施設部門責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・処分施設における環境負荷削減策の立案、実施、指導。
業務部門責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・管理棟における環境負荷削減策の立案、実施、指導。

2. 環境経営目標

項目		基準値 (2021年度実績)	環境経営目標値 2022年度	
☆二酸化炭素排出量	総量	kg-CO ₂ /年	282,162	
	処分量当たり	kg-CO ₂ /百トン	555	
電力 	①水処理施設	総量	kg-CO ₂ /年	143,657
		処分量当たり	kg-CO ₂ /百トン	283
	②管理棟	総量	kg-CO ₂ /年	22,375
		処分量当たり	kg-CO ₂ /百トン	44
③ガソリン 	総量	kg-CO ₂ /年	16,875	
	処分量当たり	kg-CO ₂ /百トン	33	
④軽油 	総量	kg-CO ₂ /年	99,112	
	処分量当たり	kg-CO ₂ /百トン	195	
⑤重油 	総量	kg-CO ₂ /年	0	
	処分量当たり	kg-CO ₂ /百トン	0	
⑥上水道使用量 		(m ³ /年)	1,003	
⑦廃棄物排出量 		(t/年)	1	
⑧化学物質使用量 		(t/年)	0	
⑨受託した廃棄物処分量		(t/年)	50,798	
⑩処分場の早期安定化		—	—	

※環境経営計画
(P.8)を参照

* 基準値は原則として、直近年度(2021年度)の使用量及びCO₂排出量の実績値としています。
 * 処分量当たりの二酸化炭素排出量は、2021年度年間処理量(508百トン)により算出しています。
 * 目標値は原則として、基準値(直近年度実績)の▲1%の削減を目標値としています。

3. 環境経営計画

環境経営計画		
CO2排出量の削減	具体的な手段	関連部署 (責任者)
電気使用量の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ・処分場の雨水対策 シートを用い埋立区画の養生を行うことで雨水を排除。これにより浸出水を減らし、水処理の電力使用量を削減。 ・準好気性埋立の実施 埋立した廃棄物内を好気性に保つことで、浸出水(原水)の水質レベルが向上し、水処理の電力使用量を削減。 ・管理棟内の節電 消灯・減灯の実施。エアコンのエコ運転(夏季26～28℃、冬季20～22℃)。事務所内でのクールビズ・ウォームビズの実施。省エネ製品への転換の検討。 	エコセンター 業務部 (エコセンター長)
ガソリン使用量の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ・社有車のガソリン使用量をデータ化、使用者の意識向上に努める。エコドライブの実施により、燃費の向上・ガソリン使用量を削減。 ・低燃費車・ハイブリッドカーへの転換。 	エコセンター 業務部 営業部 (業務部長)
軽油使用量の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ・重機のエコ運転、効率的な埋立処分計画により軽油使用量を削減。低燃費重機へ転換の検討。 	エコセンター (エコセンター長)
上水道使用量の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ・節水の実施。 蛇口に節水の呼びかけを掲示し、節水意識を向上。洗車時の節水に努める。 	業務部 (業務部長)
廃棄物排出量の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物再資源化に取り組む。分別、リサイクル。 ・廃棄物の出ない物品の購入に努める。 	業務部 (業務部長)
化学物質の適正使用・管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・薬品の購入量を管理、法規制を遵守した適正使用を実施。 ・水質分析の実施、結果の管理。 	エコセンター (エコセンター長)
受託した産業廃棄物の適正処分	<ul style="list-style-type: none"> ・処理基準、マニフェストの管理等、法を遵守した廃棄物の受入処理。 ・粉じん、騒音、振動、悪臭等を発生させない処分方法の実施。 	エコセンター (エコセンター長)
処分場の早期安定化	<ul style="list-style-type: none"> ・受入廃棄物の管理(展開検査等による性状確認) ・埋立部の攪拌による均質化やガス抜き管の設置、シートキャッピングによる雨水排除に努め、準好気性埋立の推進 	エコセンター (エコセンター長)

4. 環境経営目標に対する実績と評価

項目		目標値 2022年度	実績値 2022年度	評価		
☆二酸化炭素排出量	総量	kg-CO ₂ /年	279,340	256,821	○	
	処分量当たり	kg-CO ₂ /百トン	549	510	8%削減	
電力	①水処理施設	総量	kg-CO ₂ /年	142,220	116,155	○
		処分量当たり	kg-CO ₂ /百トン	280	231	18%削減
	②管理棟	総量	kg-CO ₂ /年	22,151	18,826	○
		処分量当たり	kg-CO ₂ /百トン	44	37	15%削減
③ガソリン	総量	kg-CO ₂ /年	16,706	16,932	×	
	処分量当たり	kg-CO ₂ /百トン	33	34	1%超過	
④軽油	総量	kg-CO ₂ /年	98,121	104,748	×	
	処分量当たり	kg-CO ₂ /百トン	193	208	7%超過	
⑤重油	総量	kg-CO ₂ /年	0	0	○	
	処分量当たり	kg-CO ₂ /百トン	0	0		
⑥上水道使用量		(m ³ /年)	993	1,059	×	
⑦廃棄物排出量		(t/年)	※環境経営計画 (P.8)を参照			
⑧化学物質使用量		(t/年)				
⑨受託した廃棄物処分量		(t/年)				
⑩処分場の早期安定化		-				

注)・2022年度 処分量実績は 50,288トン

・電力のCO₂排出係数は、電気事業者別排出係数関連ページ(環境省)を引用。
<https://ghg-santeikohyo.env.go.jp/calc>→数値を記入

・化石燃料のCO₂排出係数は、エネルギー源別標準発熱量(2018年度改定)(資源エネルギー庁)もとに算出しています。→地球温暖化対策の推進に関わる法律施行令別表第一
https://www.enecho.meti.go.jp/statistics/total_energy/pdf/stte_028.pdf

5. 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

◆2022年度の取組み結果とその評価

項目		CO2排出割合	取組み結果と評価
二酸化炭素総排出量		100%	二酸化炭素の総排出量は、目標値に対し8%減少し、処分量当たりの排出量も目標値に対し7%の削減を達成した。主な要因は電力使用量の減少によるもので、雨水排除など水処理設備の負荷低減の取組みがこの結果に繋がった。引き続き、効率的な埋立計画の立案や、浸出水源水の水質改善に向けて取り組みたい。
電力使用量	①処理棟	45%	埋立地の雨水排除、準好気性埋立の実施等、水処理施設の負荷低減に取組んだ結果、総排出量、処分量当たりの排出量ともに目標値に対し2割近い削減となった。水処理施設の稼働は当社事業活動におけるCO2排出量の半分程度を占めることから、水処理施設の負荷低減を目指した各種の取組みの継続により、電力使用量削減に努めたい。
	②管理棟	7%	空調機器の適正温度使用、定期的な清掃、クールビズ・ウォームビズを実施し節電に取り組んだ結果、目標値に対し16%の減となった。今後も節電の取組みを粘り強く継続したい。
③ガソリン使用量		7%	2022年度は新型コロナ感染拡大による行動制限も大きく緩和され、客先や行政窓口訪問など車両使用が再開されたこともあり、目標値に対し若干の増となった。引き続き使用者がエコドライブを心掛け、効率的に運転する等今後も取組みを継続したい
④軽油使用量		41%	埋立作業の進捗に伴い、処分場内の作業エリアが拡大していることから、重機作業が広範囲にわたるなどの要因もあり、目標値に対し約7%の増加となった。計画的な埋立作業計画により、無駄のない作業と軽油使用量削減に繋げたい
⑤重油使用量		0%	浸出水処理施設の最適運転、環境負荷を抑えた操業により、2022年度は重油の使用は無かった。今後も設備の最適な維持管理を継続すると共に重油の適正使用・管理に取り組む。
⑥上水道使用量		—	目標値に対し7%増となり、一昨年度の使用量(1,080m ³)と同レベルに戻った状態となった。処理棟・管理棟内の蛇口付近への節水呼び掛け掲示による意識向上に継続して取り組みたい。
⑦廃棄物排出量		—	新聞紙・ペットボトル・空き瓶等のリサイクル可能なものをすべて分別し、資源化。今後も分別、リサイクルに取り組む。
⑧化学物質使用量		—	PRTR制度対象物質を含む薬品の使用は無かったものの、引き続き薬品の適正使用・管理に取り組む。
⑨受託した廃棄物処分量		—	受託した廃棄物処分量は50,288tであった。廃掃法に基づいた適正受託、埋立処分に今後も継続して取り組む。

◆2023年度の取組み内容

二酸化炭素排出量は、事業の推移に伴って変化。各項目の二酸化炭素排出量基準値の合計を年間基準値とし、環境目標値は各項目の目標値の合計より1%削減を目標値とした。各環境活動を実施し、二酸化炭素排出量削減に取り組む。また、半期経過後に、取組内容の見直しを実施する。

			基準値 (2022年度実績)	環境経営目標値 2022年度～2024年度
☆二酸化炭素排出量		総量	kg-CO ₂ /年	250,657
		処分量当たり	kg-CO ₂ /百トン	498
電力	①水処理施設	総量	kg-CO ₂ /年	110,432
		処分量当たり	kg-CO ₂ /百トン	220
	②管理棟	総量	kg-CO ₂ /年	18,384
		処分量当たり	kg-CO ₂ /百トン	37
③ガソリン		総量	kg-CO ₂ /年	16,932
		処分量当たり	kg-CO ₂ /百トン	34
④軽油		総量	kg-CO ₂ /年	104,748
		処分量当たり	kg-CO ₂ /百トン	208
⑤重油		総量	kg-CO ₂ /年	0
		処分量当たり	kg-CO ₂ /百トン	0
⑥上水道使用量			(m ³ /年)	1,059
⑦廃棄物排出量			(t/年)	1
⑧化学物質使用量			(t/年)	0
⑨受託した廃棄物処分量			(t/年)	50,288
⑩処分場の早期安定化			-	-

※2023年度環境経営目標の基準値については、直近年度(2022年度)実績とし、目標値は以下のとおり。
(2022年度処分量:503百トン)

- ①～⑥ 各項目の目標値は、基準値に対し▲1%を削減目標とする
- ⑦ 廃棄物の分別に取り組み、リサイクル可能なものは100%リサイクルを目指す。
- ⑧ 化学物質の使用量を毎月記録し、適正な使用・管理を継続する。
- ⑨及び⑨' 受託した産業廃棄物は、処分基準を遵守し、当社処分場適正処分する。
収集運搬では、法令遵守、環境に配慮したエコドライブを推進する。

注)電気二酸化炭素排出係数(調整後)について、基準値および目標値は環境省データを引用

6. 環境保全活動

当社施設内はもちろん、周辺道路や近隣地域の環境保全に取り組んでいます。



7.環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

法規（名称）	遵守事項	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物処理業及び処理施設に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> •業の許可（更新5年毎） •廃棄物の受入基準の遵守 •廃棄物の埋立処分の基準の遵守 •マニフェストの処理、管理義務の遵守 	遵法
土壌汚染対策法	汚染土壌処理施設に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> •業の許可（更新5年毎） •汚染土壌の受入基準の遵守 •汚染土壌の埋立処分基準の遵守 •管理票の処理、管理義務の遵守 	遵法
大気汚染防止法 騒音規制法 振動規制法 悪臭防止法	産業廃棄物処理施設の設置及び維持管理に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> •大気汚染、粉じんの防止 •騒音、振動、悪臭の防止 	遵法 ※測定が必要な特定施設ではなく、近隣からの指摘等もない。
浄化槽法	年1回法定検査。検査書の保管。	遵法
道路運送車両法	環境保全上の基準の遵守	遵法
フロン排出抑制法	簡易定期点検 3ヶ月毎 定期点検 3年1回	遵法

◆法規改訂確認

- ・確認日 2023年 3月31日 確認者 久保 治美
- ・承認日 2023年 3月31日 承認者 宮後 靖浩

◆遵守状況の確認・評価及び違反・訴訟等の有無

- ・環境関連法規の違反はありません。
- ・関連当局および近隣地域からの指摘・訴訟等はありません。

◆環境コミュニケーション

最終処分場に関して福岡大学及び(株)神鋼環境ソリューションとの共同研究を通じて、適正管理に対する各種データを取得考察し、学会発表。

- ・2022年 9月「第33回廃棄物資源循環学会研究発表会」バイオマス活用研究その②地域にお住まいの方を対象に下記イベントを開催。
- ・2023年 4月「ERCウォーキング大会&処分場見学」開催
- ・2023年 8月「2023年度 会社概況説明会」開催

8.代表者による全体評価と見直し・指示

2022年度は、依然として新型コロナウイルス感染拡大が継続し、経済活動への影響が続く中、当社事業においては、産業廃棄物受入量、売上高など概ね事業計画通りの結果となりました。世界に目を向けると、ウクライナ危機によるエネルギー価格をはじめとする物価の高騰など世界中で大きな影響があり、現在も続いています。世界共通で掲げた「カーボンニュートラル」に向けて、脱炭素社会を目指した取り組みも加速していかなければ状況の中、当社は環境関連企業として、エコアクション21の活動・取り組みにより、CO2排出量削減をはじめとする環境負荷の低減を図ってまいります。

当社は、環境経営方針に定めた重点目標および環境経営目標を達成するため、各種活動を推進しました。特に当社における二酸化炭素排出の過半を占めている「電力使用量」の削減に向けては、水処理施設の運転方法の見直し効果もあり、環境経営目標を大きく上回る削減を実現しました。一方、「ガソリン・軽油の使用量」は目標を下回る結果となったことから、エコアクション21の取組を通じたPDCAサイクルを回し、目標達成に必要な施策の立案や取組にチャレンジしてください。

外部とのコミュニケーションでは、3年ぶりに再開した地域住民の皆さんを対象とした「ウォーキング大会&施設見学」や前年度末から取り組んでいる「周辺道路清掃」などの地域貢献活動により、地域に開かれた事業運営を継続することが重要です。

次年度も「環境経営方針」「環境経営目標」「環境経営計画」は変更せず、地球温暖化防止対策に繋がる取組みを継続してまいります。

株式会社イー・アール・シー高城
代表取締役 藤崎 泰士